

# 第56回全国公立小中学校学校事務研究大会（本部主管）

## 大会報告

大会テーマ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」  
—校務運営参画の道を切り拓く事務職員の学びと実践—

日時：令和6年8月9日(金)10:00～

会場：埼玉会館大ホール

参加者数：1,091名(参集678名、オンライン413名)

主催・主管  
後援

全国公立小中学校学校事務職員研究会

文部科学省 全国都道府県教育長協議会 指定都市教育委員会協議会 全国市町村教育委員会連合会

全国都市教育長協議会 全国町村教育長会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会

公益社団法人日本PTA全国協議会 公益財団法人日本教育公務員弘済会 一般財団法人教職員生涯福祉財団

### 大会目的（一部抜粋）

事務職員が事務をつかさどる役割を果たすことへの期待が高まっている。しかしながら、その期待に私たちが十分に応えられているとは言い難い状況がある。

本大会では今一度原点に立ち返り、ミッション・ビジョンの実現に貢献する学校事務の在り方について会員全体で考えを深め、事務をつかさどる事務職員・共同学校事務室の姿を共有する機会とする。

### 開会式



全国公立小中学校学校事務職員研究会 会長 前田 雄仁

全事研（全国公立小中学校学校事務職員研究会）の研究は、学校の在り方から考え、事務職員の役割を考えます。今、見える世界の中でできることを探すのではなく、在るべき理想の姿を描き、そのためにできることを見出していきます。今日の研究大会が、その第一歩となることを期待します。

### オリエンテーション



全国公立小中学校学校事務職員研究会  
研究開発部長 石田 衣絵

第56回全国研究大会は第10次研究中期計画の初年度の大会として、これからの研究の方向性を共有します。大会プログラムを通して学校事務の在り方や事務職員の役割について共に考え、理解を深めるとともに事務職員それぞれの実践の質を高めることを目指します。

### 行政説明

「文部科学行政をめぐる最近の情勢について」



文部科学省初等中等教育局  
学習基盤審議官 森 孝之 氏

令和5年7月19日の「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けた調査研究協力者会議 報告書」を踏まえて全国の取組事例の周知等を進め、学校事務の組織体制の強化が一層進むことを期待しています。



## 全体研究会Ⅰ（本部提案・討議）

提案者：全国公立小中学校事務職員研究会 研究開発部

助言者：愛知教育大学 教育学部 教育ガバナンス講座 教授 風岡 治 氏



事務をつかさどり校務運営に参画していくためには、**事務職員自身がつかさどる職としての自覚を持ち行動に移す**こと、また、そのための共同学校事務室の整備や力量形成の在り方などの仕組みが必要です。



## 全体研究会Ⅱ（シンポジウム）

埼玉県戸田市教育委員会 教育長 戸ヶ崎 勤 氏



カリキュラム・マネジメントが大事であると言われ続けているが、未だに実現できていない。その**鍵を握るのが、リソース・マネージャーである事務職員**である。これまで以上に積極的に学校運営にかかわってほしい。

愛知教育大学 教育学部 教育ガバナンス講座 教授 風岡 治 氏



夢なきものに成功はありません。夢、希望を持ちながらひとつひとつ成功体験を積み重ねていていただきたい。そして、学校のウェルビーイングの実現に向けて、**組織や人をつなぐ役割を担い、教育活動や学校経営にイニシアティブを発揮**してほしい。

## 参加者の声



- ・研究大会に参加して、次回学校に出勤した時はこういうことをやってみようというアイデアと意欲がわきました。
- ・私たち自身のウェルビーイングも大切にしながら、職種や学校の壁を超えた対話や事務職員同士の対話を通して学び続けること、課題を見つけ解決していくことを楽しみたいと思います。
- ・「つかさどる」が実行できているのか、という課題は大変耳が痛く、自身の職への向き合い方を見直す良いきっかけとなりました。

来年度は、令和7年7月31日～8月1日に滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール（滋賀県大津市）にて第57回全国公立小中学校事務研究大会（滋賀大会）を開催します。

滋賀大会実行委員長 倉辻 弘美

「三方よしで 学校まるごと ウェルビーイング」にしていきましょう。来年は滋賀に絶対来てや、待ってるで。

今大会の研究集録はこちらの二次元バーコードからダウンロードできます。

二次元バーコードは  
大会参加者用ページ  
掲載版のみ表示